



図書館だより

第6号 令和3年9月21日号



* 9月も下旬

重陽の節句もすぎ、9月も下旬となりました。緊急事態宣言下で、学校でも家庭でも何かと制約が多いこの頃です。まだまだ暑かったり、不安定な天気も続きます。ワクチン接種で体調を崩す人も増えてきました。心身ともに無理せず、健康に気を付けて過ごしてくださいね。

そんな中、朝晩は秋らしい気配も感じられるようになりました。今日は中秋の名月、月を眺めたり、虫の音に耳を傾けたり、秋の夜長を先取りして読書にいそしんでみてはいかがでしょうか。

芥川賞・直木賞受賞作をはじめノンフィクション大賞候補作や映像化作品の原作など新刊も入っています。図書館に来て、ぜひ手にとってみてくださいね。

* 新着図書

書名	著者名	他者の靴を履く
他者の靴を履く アナーキック・エンパシーのすすめ	プレイティ みかこ著	
室町は今日もハードボイルド 日本中世のアナーキーな世界	清水 克行著	
「脱炭素」は嘘だらけ 「俳句」と日本語の夢 世界(47カ国・地域)の日本語学習者102人の応募総数4013人から9022句、3歳から78歳まで 詩集「抒情小曲集」より	杉山 大志著 大森 和夫, 大森弘子編著	
ゼロエフ	室生 犀星著 げみ画	
キツネ目 グリコ森永事件全真相	古川 日出男著	
海をあげる	岩瀬 達哉著	
分水嶺 ドキュメントコロナ対策専門家会議	上間 陽子著	
デス・ゾーン 栗城史多のエベレスト劇場	河合 香織著	
日韓関係史	河野 啓著	
異文化コミュニケーション学	木宮 正史著	
ネルソン・マンデラ 分断を超える現実主義者	鳥飼 玖美子著	
大岡信 架橋する詩人	堀内 隆行著	
食べものから学ぶ世界史	大井 浩一著	
人も自然も壊さない経済とは?	平賀 緑著	
被爆者からあなたに いま伝えたいこと	日本原水爆被害者団体協議会編	
心とからだの倫理学 エンハンスメントから考える	佐藤 岳詩著	
古代文明と星空の謎	渡部 潤一著	
彼岸花が咲く島	李 琴峰著	
貝に続く場所にて	石沢 麻依著	
法医学者の使命 「人の死を生かす」ために	吉田 謙一著	
死者と霊性 近代を問い直す	末木 文美士編	
万葉集に出会う	大谷 雅夫著	
国語をめぐる冒険	渡辺 泰明他著	
フォト・レポート 里山危機 東北からの報告	永幡 嘉之著	
街路樹は問いかける 温暖化に負けない〈緑〉のインフラ	藤井 英二郎, 他著	
ヤマトグループ100年史 1919-2019	ヤマトホールディングス株式会社 // 編	
ユーゴスラヴィア現代史 新版	柴 宜弘著	
英国ユダヤ人の歴史	佐藤 唯行著	
鷗外の恋舞姫エリスの真実	六草 いちか著	
ロボット・イン・ザ・ガーデン	デボラ・インストール著 松原 蓉子訳	
LEAN IN 女性、仕事、リーダーへの意欲	シェリル・サンドバーグ著 村井章子訳	
LEAN IN WOMEN, WORK, AND THE WILL TO LEAD	Sheryl Sandberg著	

好奇心を“天職”に変える空想教室	植松 努著
生きのびるために	デボラ・エリス著 もりうち すみこ訳
本当の自由を手に入れるお金の大学	両@リベ大学長著
現代用語の基礎知識 学習版 2021~2022	
キングダム 62	原 泰久著
ドラゴン桜2 17	三田 紀房著
銀二貫	高田 郁著
対話力 仲間との対話から学ぶ授業をデザインする!	白水 始著
森鷗外「舞姫」を読む	清田 文武編



* 新着図書から



生きのびるために

デボラ・エリス著 もりうち すみこ訳



タリバン政権が成立し、アフガニスタンの情勢は予断を許さなくなってきました。アフガニスタンでの人権の侵害(特に女性に対する)が心配される中、NETFLIXで「生きのびるために」というアニメーション映画が公開されています。2018年アカデミー賞長編アニメーション賞とゴールデングローブ賞アニメーション映画賞にノミネートされた社会派アニメであるこの映画の原作がこの本です。

父親がタリバンに連行され一家は苦境に立たされます。タリバン支配のアフガニスタンでは、男の付きそいなしに女は外出できないからです。残された家族は、まだ幼い弟妹と母と年頃の姉だけ、勇気ある11歳の少女は、髪を切り男装して町に働きにでて行きます。

学校へ行くことはもちろん、女性は外で笑うことも許されない。そんな社会の中で少女達や母親達は精一杯の抵抗を試みるのです。フルカの中に様々な物を隠して学校や診療所を開いたり、男装して仕事に就いたり。11歳で結婚させようとする父親から逃げ、自ら海外を目指したり。みんながむしゃらに努力するのは、人間らしく生きるために。

筆者はアフガン難民のキャンプに通う中で、多くの女性達にインタビューし、その取材を元にこの本は書かれました。ここに描かれた世界は、タリバン支配下の女性達の実験談だと言えます。女性だと言うだけでこんな目に遭わなくてはならない少女達。この本を読むことで、少しでもアフガニスタンの実情を知ることができたらと思います。

鷗外の恋 舞姫エリスの真実

六草 いちか著



3年生が現代文で読んでいる森鷗外の『舞姫』は鷗外の体験が元に書かれていると言われていました。ドイツ留学から帰国した鷗外を追って、エリゼという女性が鷗外帰国の数日後に横浜までやってきたということは、大変有名なエピソードです。しかし結局、鷗外周辺の人々の説得で彼女はドイツに帰っていくのです。『舞姫』エリスのモデルと思われるこの鷗外の恋人はいったいどんな人だったのか?今まで様々な研究者や好事家が「本当のエリス」を探し、様々な説が発表されてきました。

著者はベルリン在住のライターです。たまたま知り合ったドイツの男性の「オーガイというその軍医、その人の恋人は、僕のおばあちゃんの踊りの先生だった人だ。」という言葉に触発され、そして今までのエリス像のあまりのひどさに憤慨し、「本当のエリス」の姿を求めて、一人追跡を始めるのです。先行研究の検証をしながら、当時の地図、住所録や教会の記録簿をもとに丹念に調査を続け、真実にたどり着いていく様はまるで推理小説のようで、一気に読むことができます。『舞姫』や『森鷗外』に興味のある人は、ぜひ読んでほしい一冊です。

10月には芸術鑑賞教室が開催される予定です。(コロナの状況が悪化しなければ・・・) また、近づきましたら図書委員を通じて詳細をお知らせします。お楽しみに。